

石 鹼 日 用 品 新 報

株式会社 石 鹼 新 報 社
 編集発行人 由 上 優
 本社
 大阪府北区天神橋2の2の11
 〒530-0041(阪急産業 南森町ビル 7F)
 電話 (06)6351-5182(代表)
 東京支社
 東京都千代田区三崎町3の10の2
 〒101-0061(みき舎 9L02F)
 電話 (03)3239-0455(代表)
 URL: <http://www.sekkenshinpo.com>
 購読料前納(送料込)一年15,000円+税
 毎週水曜日発行

主な読みもの
 ▼8-9面 ライオン「スクラートG」PR企画
 ▼17-27面 キッチン・手袋特集

全卸連

「チャリティーボウリング大会」第1回CSSカップ」開催を決議

流通懇談会では返品削減について討議

全国化粧品日用品卸連合会(全卸連・森友徳兵衛会長)は9月12日、都内で平成29年度第2回正副会長会、第2回常任理事会、第1回流通懇談会を開催。常任理事会では全卸連として初のチャリティー活動「全卸連チャリティーボウリング大会」第1回CSSカップ」の今年度の開催などを決議した。

事務局によると、常任理事会には29人(委任状9人含む)が出席。議題は①単位組合活動状況の報告②「第1回グレートディールショー」についての報告③全卸連チャリティーボウリング大会「第1回CSSカップ」開催について④事務局報告⑤の4議題。

「普段訪問できない地域卸の方々と交流ができた」など概ね好評だった。一方、「会場が一方通行だったために逆戻りできず面倒だった」といった意見もあった。

全卸連チャリティーボウリング大会「第1回CSSカップ」開催については、会員と賛助会員(メーカー)、関係団体との親睦を図るとともに社会貢献につなげる。大会は、10月19日の首都圏(首都圏は2回開催)を皮切りに北海道、東北、中部、近畿、九州山陰の7地区で予選を行い、来年3月に予選を勝ち抜いたチームで全国大会を行う。(詳細別項)

グレートディールショーについては、7月7日に東京都立産業貿易センター台東館7階南で開催し、メーカー45社、システム会社2社、卸2社、合計49社が出展。102社、272名が出席した。卸側から一日頃コミュニケーションのない中堅メーカー、化粧品メーカーの情報を得ることができた、「業務用品に関する情報を得ることができた」など好評、メーカー側からは

「普段訪問できない地域卸の方々と交流ができた」など概ね好評だった。一方、「会場が一方通行だったために逆戻りできず面倒だった」といった意見もあった。

ゲンキー
新株発行と第三者割当増資で64億円を調達
 「new300坪タイプ」の新店を加速

ゲンキーは、9月12日、新株発行と第三者割当増資で64億円を調達し、2018年度6月中旬に44億円を新規

出店及び既存店舗の改装のための設備投資資金の一部に充当し、残額を同年度中に返済期間を迎える金融機関からの長期借入金返済の返済に充当すると発表した。

同社は、日常生活インを支える生活必需品総合ストアを目指し、福井県、岐阜県、愛知県及び石川県で医薬品、化粧品、雑貨、食品等を中心に販売するディスカウントドラ

ッグ192店舗(17年6月20日現在)を運営。従来、売り場面積600〜900坪のメガドラッグストアを中心に新店してきたが、今後については、多店舗高速出店を見据えた店舗レイアウトや作業が標準化された「new300坪タイプ」のディスカウントドラッグの出店を加速させ、より住宅地へ深く入り込むとしている。

事務局からの報告では、組合費徴収に関する報告のほか、「外国人技能実習制度」の対応職種に「物流作業」の追加要請を行った経緯についての報告が行われた。

「外国人技能実習制度」の「物流作業」追加要請については、人手不足が深刻な会員の要望に応える形で、全卸連として経済産業省に申し入れ、第1回目の面談を6月23日に行い、化粧品日用品卸の物流課題について説明

した。「外国人技能実習制度」とは最長3年の期間において、技能実習生が雇用関係の下、日本の産業・職業上の技能等の修得・習熟をすることを内容とするもので、受け入れる方式は、企業単独型と団体監理型に大別できる。

第1回流通懇談会は、返品について協議が行われ、ゼロネクスト(青年部)の早水由副委員長(森友通商)から今年度の事業活動として行った返品処理現場見学についての報告、製・配・販連携協議会の返品の取り組みについて、平松秀郷マツモトキヨシホールディングス営業統括本部・IT統括部長の返品削減取り組み事例の報告、加藤弘貴流通経済研究所専務理事の「日用品における返品削減の進め方手引書」についての説明、出席メーカーからの返品削減状況の報告が行われた。